

前 言

プロジェクト研究代表者：東北学院大学文学部教授

谷 口 満

東北学院大学アジア流域文化研究所は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業による研究事業、「新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト」を、平成24年度から開始した。課題名の通り、研究環境の大きな変貌、研究者意識の大きな変化、地域住民歴史意識の大きな変質という新しい時代様相に応じて、日本においては東北地方、中国においては長江上流域、韓国においては半島西南部及び島嶼部を主な対象地域に取り上げ、その文化と民俗を、三地域の比較を考慮にいれつつ歴史的に考察しようとするものである。当然さまざまな歴史事象が問題とされることになろうが、周縁域の歴史構造がもつ真の意味での自立性・自律性というものは、おそらく宗教事象にこそより強く表現されているであろうとの想定のもとに、その点をとくに強く意識して研究を進めるつもりであり、課題名に“宗教文化構造”という一語を入れたのは、そのためである。

初年度である本年度は、プロジェクトの準備期間もかねて、次のような研究プログラムを展開した。

- 一．周縁域史研究の、現在における研究動向・資料状況などの調査を、上記三地域はもとより、九州北部及び中部、山陰地区、紀伊半島西部、中国西北部、ベトナム中部、韓国中南部といった周縁域のそれらについて実施し、周縁域史研究の問題点を把握することに務めた。この調査には、本学アジア文化史専攻の院生を積極的に参加させ、研究能力の向上に資することができた（出張記録などは、本研究所の年報『アジア流域文化研究 IX』に掲載する）。
 - 二．重慶師範大学歴史与社会学院・韓国国立扶余文化財研究所などとの研究連携を本格的に開始し、周縁域史研究の問題点とその対処策を相互に確認した上で、今後の共同研究の基礎的組織を構築した。
 - 三．4回にわたる研究会・シンポジウムを開催して、研究成果を広く公開した。
 - 四．大震災によって被災した、東北沿岸部の研究組織の復旧に対する協力と、流亡・散逸した歴史資料・考古資料・民俗資料の収集と保存は、本プログラムの重要な課題の一つであり、在地自治体・在地研究機関と連携しつつ、その作業を鋭意推進した。
- これらの成果は、各種の媒体によって逐次公表していくつもりであるが、本誌本号には、そのうちから、下記要項によって開催した「公開国際シンポジウム・日中韓周縁域史研究ことはじめ」をとりあげて、その記録を掲載することにした。東北地方・長江上流域・韓

国西南栄山江流域を対象としてその歴史と考古を論じている通り、本研究プログラムの文字通りの出発点となるシンポジウムに他ならないからである。

本シンポジウムは東北学院大学博物館「日中歴史研究交流推進・交流拠点形成事業」(文化庁：文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業。研究代表者辻秀人東北学院大学教授)との共催によるものであり、諸事務において協力をおしまれなかった辻教授及びスタッフの皆さんにあつく御礼申し上げたい。

また当日の通訳、提出原稿の翻訳・整理については、東北大学大学院教育研究支援者の水盛涼一氏・東北大学院生の周曉萌さんと趙力傑君(中国語)、韓国江陵原州大学の崔英姫さん・本学佐川正敏教授(韓国語)に全面的に担当していただいた。その周到的な通訳・翻訳・整理がなかったならば、本誌本号へのこの記録の掲載は、おそらくかなわなかったであろう。五名の方々にあつく御礼申し上げたいと思う。

さらに、本誌本号への掲載が可能になったのは、本誌の編集主体である東北学院大学文学部歴史学科の格別のご配慮によるものであり、学科長渡辺昭一教授をはじめ、関係各位に、深い感謝の意を表さねばならない。

平成25年度には、重慶師範大学に日・中・韓三国の研究者が集っての、国際シンポジウムの開催を計画している。どのような議論が展開されるか、今から楽しみはつきないが、その記録もできれば本誌に掲載して公表したいと考えている。

本プログラムに今後とも、一層のご支援・ご協力を賜うよう読者諸賢にお願いして、前言之としたいと思う。

— 東北学院大学アジア流域文化研究所・博物館共催 公開国際シンポジウム —

《日中韓周縁域史研究ことはじめ》

日時 平成24年12月15日(土) 12時30分～

会場 東北学院大学土樋キャンパス8号館5階 押川記念ホール
(プログラム)

主旨説明 谷口 満(東北学院大学アジア流域文化研究所所長)

基調講演 「重慶の歴史と文化」

管 維良(重慶師範大学博物館館長)

講演Ⅰ 「考古資料からみた先秦三峡地区の東西文化交流」

蔣 剛(重慶師範大学歴史与社会学院)

講演Ⅱ 「古代蝦夷研究の歩み」

熊谷公男(東北学院大学文学部)

座 談 「韓国栄山江流域の考古発掘成果をめぐって」

崔 英姫(江陵原州大学校人文学部)

佐川正敏（東北学院大学文学部）

金 容民（国立扶余文化財研究所・資料提供）

閉会講話 辻 秀人（東北学院大学博物館館長）